

企業名：大正製薬ホールディングス

レポート名：大正製薬ホールディングスアニュアルレポート分析

1. この会社が目指す姿が理解できるか

最初に現在の社会の状況を分析し、グローバル化が生んだ問題やそれに関連する動きを「SDGs」や「Society5.0」などの具体的な目標を引用して説明しており、それらを医薬品産業へ結び付けて今後対応していくべき変化を大まかに示している。その後、国内と海外とを分けてそれぞれの状況の分析をして、多様化するニーズや購買行動への対応など今後の方針を説明している。具体的な方針を見ていく際、それ以前で述べられている大まかな指針が背景にあることから理解がしやすく感じた。また、今後目指していく姿一つ一つに対して適切なデータや根拠が示されており、これによってよりわかりやすくなっているのではないかと思う。これらのデータや根拠も企業側だけでなく消費者である私たちも実感がわくような内容であり、理解を深めるのに大きく寄与していた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

国内 OTC 医療品市場ではメーカーシェアが一位で、複数個カテゴリーシェアが一位である商品を取り扱っており、同様の商品を扱う他の企業とは大きく差をつける形となっている。中でも、「リポビタミンシリーズ」や「パブロンシリーズ」などは長い間人気で、企業のブランドとしても定着し、より支持されるのではないかと考えられる。また、海外進出も早くから行われており、中でもアジア地域では大きな売り上げがあることからその点でも他の企業をリードしている。以上のことが伝わるため競争優位性が十分理解できる内容だったと言える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前述の通り、「リポビタミンシリーズ」や「パブロンシリーズ」などはブランド化しており、これらの製品自体も安全性や機能性を重視したものだと思取れる。OTC 医療品に対しては高い安全性が特に望まれるため、一つのブランドとして知られているこれらの商品は信頼性が高いことから物価が上がっている中でも、今後とも大きな人気を得るのではないかと考えられる。また、これらのブランドを利用し、その派生の商品として現在のニーズに応えるようなものを開発しており、より多くの人に求められるような企業へなっていくことが期待される。また販売方法も通信販売などを取り入れており、コロナ禍で自粛が求められる中で健康を気にした人が気軽に購入できたのだと思われる。コロナウイルスのような緊急事態に対してもその状況を正しく分析し、今後の展開を見据えた商品開発やその他のサービスの運用を考えられていることが資料から読み取れるため今後も競争優位性に持続性

が十分にあると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

大正製薬ホールディングスでは社会の状況に合わせて行っている事業を変化させたり、新たに始めたりしていることが読み取れた。このことから、まず状況の分析力が向上すると考えられ、その分析に対して適切な対応を考え出す発想力の向上も見込まれる。また、工夫がなされた広告展開が行われていることなどからマーケティングの技術も身につくと思われる。他にも大正製薬ホールディングスではグローバル化が進んでおり、コミュニケーション能力や言語能力が育つような環境と言え、SDGsなどの世界的な目標にも積極的に取り組んでいることから世界の問題を見据えた広い視点も持てるようになっていくと考えられる。女性の活躍の場の整備やダイバーシティ&インクルージョンの考え方を教育する機会を設けていることから多様性への高い意識が身につくようになっていく。以上から、企業の成長や社会貢献だけでなく、社員の能力や価値観の成長も見込まれると考えられる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

私のような一般人は普段耳にしないような単語が何個か見受けられたが、その中でも詳しい説明がないものも少しあった。アニュアルレポートを毎年みるような方々にとってはこれらの説明は不要であることから毎回文章中に書き加えることは難しいと考えられるため、印をつけて資料の下のほうで説明する部分を増やせばより多くの人にとって分かりやすいものとなるのではないかと思う。また、見出し以外の多くの文字が同じ大きさとで育児休業取得率、復職率 100%などといった一般的に見てもっと強調してもいいような業績などが目立っておらず、もったいないように感じた。文章中でもより重要なところが一目でわかるとより魅力的に映るように思えた。